

令和6年度（2024年度）第2回東海市地域公共交通会議会議録

○会議の名称 令和6年度（2024年度）第2回東海市地域公共交通会議

○開催日時 令和6年（2024年）8月26日（月）

午後1時30分から午後3時00分まで

○開催場所 東海市役所302会議室（3階）

○出席委員 稲吉豊治（会長）、齋藤誠（副会長）、嶋田喜昭（議長）、
金森隆浩、高井勇輔、天野朝之、小林裕之、藤田和弘、小島浩資、
久野兼幸、野崎舞衣子、冨田厚子、安田譲、秋山和子、安藤剛輔、
小笠原功、中島淳、宮川高彰、伴野誠司、石屋義道

○欠席委員 湯浅一成、片桐眞砂子、桑山忍、今井聡至

○事務局 都市建設部長、都市計画課長、同主幹、同統括主任、同主任、
同主事

○オブザーバー 委託事業者2人

○傍聴者の数 3人

○議題及び審議の概要

1. 開会のことば

2. 会長あいさつ

（会長）

10月1日が近づいており、らんらんバスの新しいダイヤとルート、デマンド交通の実証実験がもうすぐスタートする。準備も進んでおり、らんらんバスの充電設備の工事が本日から庁舎西側の第二駐車場で行われている。デマンド交通は8月20日から説明会を開催しており、4カ所で各3回ずつの計12回の開催を予定し、現在1巡目が終了している。どちらも9月1日の広報とうかいで周知していく予定である。

本日の会議では、デマンド交通の実証実験やらんらんバスの利用状況、また、今回配布している新しいダイヤとルートのガイドブックが完成したため、これらについて忌憚のない意見を頂戴したい。

3. 報告事項

(1) 令和6年度（2024年度）第1回会議録の確認について

事務局による資料1の説明

(2) 循環バスの利用状況等について

事務局による資料2の説明

(委員) コロナは令和5年5月に5類に移っているが、それによる利用者の減少の戻りは少ない。ただ、買い物や通院などの日常生活に必要な移動は変わらないと思われるため、移動の方法が変わったと考えられる。また、生活のスタイルが変わり、近くのスーパーなどで買い物を済まして、バスを利用しなくなった可能性もある。委員になって気づいたが、周りからの声を聞くと、循環バスを知らない人が多く、自分に関係ないと思っている人が多い。実際に自分が自動車を運転しなくなってから知ろうとしても遅いと思う。メディアスの放送でたまたま観たが、知多市コミュニティバスのあいあいバスの乗り方を放送していた。東海市もバスの乗り方などの周知があったら良いと思う。地域によって移動の傾向が異なると思うので、地域の町内会等でバスマップを配布するとか、説明する機会があるとバスを知る良い機会になると思う。

(事務局) 10月1日から路線体系を見直した新たなダイヤ及びルートで運行を開始する。9月1日の広報とうかいでバスの乗り方やダイヤ及びルート改正について紹介すると同時に、メディアスでもこれらについて放送させていただく。前回の改正時にも同じように周知を行っていたが、こういったタイミングでないとできていなかったため、今後はバスを利用しない方や知らない方にも知っていただけるよう、ダイヤ改正時だけでなく周知していけるよう取り組んでいきたい。

ガイドブックは9月1日の広報とうかいでの周知と併せて全戸配布の予定である。ガイドブックには、らんらんバスのダイヤ及びルート改正、バスの乗り方や支払い方法について記載している。周知の取組としては、社会福祉協議会と連携し、「認知症と車について考える講座」でバスの乗り方などの説明を行うことなどについて検討している。

(議長) 利用状況がコロナ前に戻っていないことについて、事務局の見解などはあるか。

(事務局) 戻っていない理由としては、生活の変化もあると思われるが、令和2年10月に路線とダイヤを変更し、朝夕ダイヤ・昼間ダイヤを導入している。昼間ダイヤは、2時間に1本とダイヤの運行間隔が長く、ニ

ーズに対応しきれていないこともあり、利用に影響している可能性もある。今回のダイヤ及びルート改正では、多くの意見や要望を参考に検討しており、ニーズに対応したものになっていると思う。今まで使いつらくて利用されなかった方が、またバスを利用していただけるようになり、利用者数の増加に繋がれば良いと考えている。

(議長) 利用者の時間帯別の利用状況は把握できているのか。コロナ前の朝昼夕など、時間帯によって利用目的も異なるため、これらを把握して分析できるとよい。

(委員) バスの乗り方を知っている子どもたちがどれだけいるのかという視点も必要ではないか。らんらんバスは高齢者が利用するイメージが強いが、子どもたちにも利用してもらうための工夫に取り組んでいけたらよいのではないか。

(事務局) 小学生に対してバスの乗り方教室の実施を継続しており、今年度も予定している。バスの乗り方や安全面なども含めて知ってもらうため、乗り方教室を通じてバスに関心を持ってもらう機会を設けている。

(議長) 小学校は全て回っているのか。

(事務局) 1年に2校回っており、対象を主に低学年としている。

(議長) 1回も参加できずに卒業してしまう子どももいる。回数を増やすことは難しいのか。

(事務局) 運行事業者と一緒に検討していきたい。

(委員) らんらんバスの利用者の戻りは7割にとどまっているのが現状であるが、路線バスにおいては、上野台線や横須賀線などの一般路線については、なかには7割に届いていない区間や路線もある。近隣市では、利用者数がコロナ前を超えている地域もあり、バスに乗らないと移動できないような地域は潜在的に需要があったと思われる。利用者に対しての周知広報等については、まだ工夫の余地があると感じている。バスの乗り方教室を行ってみて、自分の乗り物でないと感じている方が一定数いると毎回感じる。バスに乗ったことがあるか尋ねると3分の2程度が手を挙げ、3分の1は乗ったことが無い状況である。小学生は無料で乗車できるが、これを知っている方は先生も含めほとんどいない。バスは自分の足の一つであると知っていただく必要があると

感じる。知多乗合（株）としては、バスの乗り方教室の回数を増やすのは問題ないため、相談してほしい。

（事務局）バスが自分の乗り物でないと感じている方に、少しでもバスは自分の乗り物であると、多くの人に利用してもらえるようにしていきたい。乗り方教室についても検討していきたい。

（副会長）利用状況を見ると大幅な増加には至っていない。デマンド交通にも期待している中で、数字だけで判断するものではないと思うが、デマンド交通を導入して、循環バスの数字との関係でいうと目標値としてはどう考えていくのか。

（事務局）デマンド交通が導入されることによって、バス利用の増加だけでなくタクシーの利用増加も期待しているところである。デマンド交通による他の公共交通への影響については、これから実証実験の中で把握していく必要があると考えている。数字だけでなく、アンケート調査により利用目的等のニーズを把握し、本格運行に繋げていきたいと考えている。デマンド交通は、バスよりは使いやすいが、タクシーのほうがより使いやすい位置にある。デマンド交通が不便と感じれば、タクシーを使っただけのよう案内し、他の公共交通の利用が活性化していくようにデマンド交通を進めていきたいと考えている。デマンド交通の対象地域は、名和、浅山、南柴田の一部となっている。移動範囲も市内全域ではないため、エリア外へ移動する場合は他の公共交通との乗り継ぎも必要になる。名和駅や聚楽園駅も近いため、鉄道利用への影響など、市としては公共交通の活性化に期待している。

（2）デマンド交通「チョイソコとうかい」の実証実験の進捗状況について

事務局による資料3の説明

（委員）第1回目の住民説明会で寄せられた質問や、63名出席の内25名登録とのことであるが、出席した方が登録に至らなかった理由は何が考えられるか。

（事務局）郵送での登録も可能であったため、持ち帰られる方が大半であった。頂いた質問としては、詳細な説明を求められることもあり、説明会後に補足説明を行い対応した。具体的には、乗合いのシステムに関しての補足説明、希望時間に予約が成立しない場合の対応について説明して

いる。また、運賃が高い、どうやったら本格運行となるのかという意見や質問もあった。

(委員) 総務省の通信利用に関するデータで、スマートフォンの利用状況として13～59歳が100%に近い数値であり、60歳以上から少しずつ低くなっている。こういった状況がある中で、インターネットから利用される方がどれくらいいるのか。コールセンターの混雑だとか、今後改善していくこともあると思う。

(事務局) 他市の事例でもコールセンターに電話して予約する方が多く、高齢者からするとインターネットよりも電話予約のほうが使いやすい傾向にあると考えられる。電話予約は受付時間が決められているが、インターネット予約は年中無休で利便性が高い。電話が繋がりにくい時間帯など今後課題は出てくると思う。説明会の中で、車両数が1台というのに対し、少ないという声もあった。稼働しない時間帯があれば非効率であるため、少ない車両数で効率よく運行するため、1台で設定している。今後、改善が必要と考えられることはこの会議で協議事項として議論いただきたい。会員条件については、今回の実証実験では高齢者に視点を当てている。自動車を持たない若年層も移動に困っている可能性もあるため、今後本格運行などで検討する可能性は十分にある。

(委員) 循環バスも10月からダイヤ及びルート改正の予定であるが、デマンド交通を導入することで、循環バスの名和線やタクシー事業者へも影響あると思われる。デマンド交通導入による影響をデータ等でまとめて、会議の中で報告してほしい。

(事務局) 既存の公共交通への影響は考えられるため、交通事業者からのデータ等も含めて情報共有していきたい。

(議長) P D C Aサイクルの中でとくにチェックはしっかりしていったほしい。どうやって事務局のほうで検討していくのかなど、何か方針はあるのか。

(事務局) 昨年度第4回地域公共交通会議でも示しているが、目標値を設定している状況にある。会員登録数を500名、チョイソコでの1日あたりの移動回数を18回/日とし、令和7年4月から9月の半年間の数値

で評価していくことを想定している。また、乗合いは1．5人／回を目標としている。これらの目標値は県内の他市町を参考としている。会員登録者へアンケート調査を実施することや、利用対象であるものの会員登録をしていただけなかった方の理由についても把握していきたいと考えている。

4. その他

(事務局) 10月1日からのらんらんバスのダイヤ及びルート再編に伴い、9月1日の広報とうかいにてガイドブックを全戸配布する予定である。また、らんらんバスを利用していただく方に持ち運びが便利なポケットサイズの時刻表を作成しており、バスの車内や公共施設、知多バスの東海営業所等に設置を予定している。ガイドブックには、変更した主なポイントや、利用案内、バスの乗り方や運賃支払い方法、バスロケーションシステム、主な乗り継ぎ案内などについて記載している。

5 閉会のことば